令和元年度　全国中学生・高校生防災会議
「全国防災ジュニアリーダー育成合宿 in 阿蘇」参加報告

令和元年度 11 月 15 日(金)～17 日(日)　熊本県にある国立阿蘇青少年交流の家で令和元年度全国中学生・高校生防災会議「全国防災ジュニアリーダー育成合宿 in 阿蘇」(主催:独立行政法人国立青少年教育振興機構　主管:熊本県立第二高等学校・国立阿蘇青少年交流の家)が行われ,本校より本間優輔さん(普通科 1 年)と櫻井乃綾さん(災害科学科 1 年)が参加しました。

熊本県阿蘇地域は,平成 28(2016)年 4 月に 2 回に及ぶ最大震度 7 の地震に見舞われ,また,火山活動も継続して続いている地域にあって,この合宿には熊本県の高校をはじめ主に西日本の中学校高校 20 校の生徒 51 名が集いました。

まず,立野ダムや高野台という立野被災地を見学。その後,熊本大学特任准教授の鳥井真之氏により講義「熊本地震から学ぶ自然災害との付き合い方」を受けました。また,「災害…浮かび上がる暮らしの課題　熊本地震と現代社会」という題で,熊本日日新聞社論説委員・小多崇氏の講演を聞きました。

2 日目には,阿蘇ジオパークガイドの方や語り部ボランティアに取り組む東海大学の学生の話を聞き,最終日には熊本県立第二高等学校の生徒の案内で復興途上である熊本城を見学することができました。

【参加生徒の感想】

「今回の熊本育成合宿では,災害関連死の危険性や,東北地方ではあまり発生することの少ない豪雨による被害についても学ぶことが出来た。震災を経験した方々からのお話は,災害現場その場にいるかのように感じ,自分達の地域と重ね合わせ真剣に考えさせられた。そして,どの方のお話でも自分には共通している部分あるように感じさせられた。それは『災害を他人事と考えてはいけない。常に自分達にも降りかかる可能性があることを考慮しておかねばならない。』ということである。私たちが生きているこの日本は,他国と比べると災害が何度も起こる国だ。過去に発生した災害の被害について忘れることなく,自分たちでできる限りの備えをしていく必要があると思った。

これからは,今回の合宿で学んだことを家族や友人,地域の方々に共有するために積極的に発信活動に取り組んでいきたい。」(本間優輔)

「この合宿を通して「知る」,「伝える」これらの大切さを体感しました。「この場所はどのような危険があるのか」「この場所は過去にどのようなことがあったのか」などを知るということが,自分の命を守る上でとても重要だと改めて思いました。

そして伝えるということ,それは未来を守るために必要だと強く感じました。災害というものは生きているうちに出会うか出会わないかわからないほど発生頻度が低いのです。だから災害を経験した人達が伝えることが必要であるということ。それはいつか起きてしまう災害で同じ過ちをおかさず被害を最小限に抑える,すなわち未来を守ることが必要だと感じました。

フィールドワーク,講義そして各学校の防災減災への取り組みから学んだ事を元に大震災から学んだ教訓を確実に次世代に伝承するため,まち歩きやDIGのような活動により一層励んでいきたいと思います。」(櫻井乃綾)